

念仏もうさるべし

―学仏大悲心（仏の大悲心を学ぶ）七―

十一月であります。今年もあと二ヶ月となりました。まだ落ち着かない日が続いていますが、お同行さま方には「本願のおはたらきのかな」「なんまんだぶ、なんまんだぶ」とお念仏ご相続のことと思います。今月も「梯 實圓和上の西法寺でのご法話をお聞かせいただきます。くり返し、くり返しご聴聞ください。」

『：しかしね、お浄土へ生れるには御開山の信心と同じ信心を持ち、法然聖人と同じ信心を持ち、お釈迦さんのみ教えと同じ信心をいただいて、そしてお浄土へ参っていくんだ。自信持ってますか？それが自信持てるような生き方をすること。俺はこの世の生き方は下手だったけれど、お浄土参りだけは絶対に取り外さないで。こう言える、そういう身になることですわ。この世は失敗だらけだったけれど、お浄土参りには失敗しないぞ。これが言えるような人生を生きたら、人生なんでもええから、ひとつは自信持って生きるこっちゃな。』

これに関する限りは、お釈迦さんも私も一緒や。親鸞聖人も私も一緒や。と、言えるようなそういう信心を持つ、ということですか。これが一番大事な事です。それをね、他の人は智慧が優れておれば信心が優れておるんだらう、色んなこと知って覚えて、仏教の学問でもできりやお浄土参りが確実にできるだらう、そんなこと考えてたら大間違いだ。信心っていうのはね、なんぼ勉強したかて身につかん。勉強したからという身につくもんと違う、信心は。それははつきり言うておきます。覚えるもんと違うんですから。覚えて知るもんじやないんだからね。というてね、先ほども言いましたようにわしらみたいに呆けて、そのうちにね、だんだんだんだん自分の言うてることも分からんくらい呆けてくるだらう、信心も何もかも忘れてしまうようになるかもしらん。今んとこまだね、お念仏くらいは何とか覚えてるけどな。そのうちに、お正信偈も忘れ、御和讃も忘れ、最後

はお念仏も忘れてしもて、ぼけくっとなってね、信心がどっち向いてるか分からんような、そんな姿になるんやろ思うけどな。

それでもな、「お前の後生大丈夫か」って言われたら、「如来さまが忘れてくださらんから大丈夫や。俺は忘れてしまいうけども、俺は忘れても私のことを忘れてくださらん仏さまがいらっしやるさかいに大丈夫や」って、わしはそれだけ言わしてもらうで。そうなんですよ、死ぬなんてことは簡単なもんやから、わしは死んだことないから知らんねんけども、全身麻酔してもろて手術したことがある。注射一本で何もわからんようになる。何もかもふわっとなつてもうてわからんようになる。それで七時間か八時間か何も知らんわ。腹切られようと、胃取られようと、胆のう取られようと何取られようと知らん。何にもわからへん。それで終わったら、先生が「終わりましたよ、もうすぐ麻酔が切れますよ、大丈夫ですか、大丈夫ですか」って言われたかてこっちはわからへんわな、そやけどなんかこう息苦しいんで、「なんか吸う息が苦しいですわ」って言うたら先生調整してくれはって、楽になったわ。あっさりしたもんや。死ぬも生きるもそんなもんやで。知らん間に死んで、知らん間に生れとる、お浄土へは。

しかしね、本当のところこれだけは味わわしてもろとつたほうがいいでしょう。みんな忘れてしまふかもしれませんで。自分の名前も分からんようになるでしよう。自分の子どもや孫の名前もわからんようになるだらう。お前誰やいわれても、知らんで。いうことになるやろな。だけどね、浄土真宗の信心は如来さまからいただいた信心だ。だから金剛堅固だ。壊れることがない。つまり信心とはね、如来さまが、「必ずたすける」と決めてくださったことが信心の本体なんだ。

私を助けるのは仏さまの仕事やで。わしがクチバシ入れるとこじやないでしょうが。「如来さん私をたすけるんですか、たすけんのですか？」って仏さまに申しあげたら良い。あ、今夜帰ってね、仏さんにお参りしなはるやろ、お参りしなはたらね、ちよっと一言言いなはれ。「仏さま、私は今度お浄土へ生れるんですかどうですか？」って聞いてみなはれ。：』

なもあみだぶつ